

デジタル社会を支える

今回はちょっと小難しい内容ですが、ぜひ最後まで目を通して頂きたいと思います。

■Society5.0(ソサイティ5.0)

Society5.0という言葉、聞いたことありますか？ 多分、詳しく知っている人はわずかだと思えます。ざっくりと言えば、「IoT、AI、ドローン、自動走行車などのIT技術を駆使することで、新たな価値を創造する、と同時に、私たちの周りにある社会的課題を解決していく」とするものとなります。

わかりづらいですね。やはり「何それ？」だと思います。そこで「スマート農業」を具体例としてあげてみます。

農業は担い手不足にあえぐ典型的な産業です。データよりも経験則が大事にされてきた分野とも言えます。そこで農業にドローンなどのIT技術を導入し、客観的データによる農業経営を確立させて行こうとする取り組みが始められました。それがスマート農業です。実際、市内の畑地区でも、基盤整備にあわせてJAと共同でドローンを使った実証実験が始められています。

■Society5.0の背景

AI、IoT、5Gなどの革新技術を活用しながら社会的課題を解決していくとする動きは、なにも日本だけのことではありません。むしろ、多くの国が、ドイツのインダストリー4.0、中国製造2025などに見られるように、国策としてIT分野の優位性確保に懸命となつています。昨今の米中貿易摩擦もこの覇権争いの一つです。

私たち市内においてもすでに多くの企業でIoT導入などが行われています。というよりは、TDKなどはSociety5.0を支える重要なプレイヤーでもあります。ですので、市としても、このことをきちんと認識し、施策に反映していかねければならないと考えています。

そこで、市ではIT人材の育成の実践として、来年から始まる小学校でのプログラミング教育の必須化に先駆けて、仁賀保高校情報メディア科の生徒に一部協力してもらいながら、今年度から小学校でのプログラミング教育を始めます。その他にも、フェライト子ども科学館では、県立大OBによる地元ITベンチャーに運営を委託しながら、3Dプリンター教室を開校させています。

■マイナンバーカードの普及

最後に、マイナンバーカードの普及についてお話ししたいと思います。10月1日の消費増税にあわせてキャッシュレス決済によるポイント還元制度が始まりました。来年6月まで続くこの制度は、電子マネーなどによる支払いに、政府の補助金からポイントが還元されるというものです。そして、予定では来年7月からは、このポイント付与の対象を健康保険証などの機能を持たせたマイナンバーカードに限定するとしています。

政府は、Society5.0を推進するうえで、デジタル社会の基盤となるマイナンバーカードの普及が不可欠であるとしています。言われるように「経済の生産性向上」にこつとSociety5.0が必要であるならば、カードの普及は必須条件なのだと思います。



にかほ市長
市川雄次

